

年間第二十八主日

2018.10.14

マルコ 10・17-30

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高神父

「永遠のいのちを受け継ぐには、なにをすればよいでしょうか」。イエスのもとに走りよって、このように尋ねた今日の福音に語られている人の問いかけは、わたしたちの問いでもあります。「あなたは信仰の何を求めますか」。洗礼のときにこのように問われて、わたしたちも「永遠のいのちを求めます」と応えなくてはなりません。永遠のいのちを受け継ぐとは、神がわたしたちのために用意してくださっている永遠のいのちに入ることです。そのためには、「持っているものを売り払い、貧しい人々に施しなさい」とイエスは言われるのです。イエスにこのように言われたら、今日の福音の中のあの人だけではなく、わたしたちも高揚した気持ちが一気に冷めて、悲しみながらイエスから離れたくなってしまいかもしれません。「子たちよ」とイエスはイエスのことばを聞いて戸惑う弟子たちに呼びかけておられます。「子たちよ」と呼びかけてくださるイエスの心のうちを理解することができる時、わたしたちもイエスの弟子とされたことがどれほど大きな恵みであるかを悟ることができるでしょう。この世の生活を生きているわたしたちはらくだが針の穴を通るようにして、イエスに従う者とされたのです。不可能と思われることを可能にする神の全能の力によって、信じる者たちとしていただいたのです。らくだが針の穴を通ることを可能にする神の全能の力によって、十字架の上に死に、墓に葬られたイエスは復活し、この世の生に捕らわれていたわたしたちはイエスを死者の中から復活させられた神の力を信じて生きる者たちとされたのです。神を信じて生きるとは、この世に生きるわたしたちの生を神にゆだねて生きるということです。ゆだねることのできないわたしたちにイエスは「子らよ」と呼びかけてくださり、わたしたちを神の子としてのご自分のいのちに招き入れてくださるのです。

今日もこのミサの中で、イエスのいのちの食卓に招かれたわたしたちは、「主よ、あなたこそ永遠のいのちの糧、あなたをおいてだれのところに行きましょう」と信仰告白をして、御聖体を拝領します。今ここで、すでに神の子イエス・キリストのいのちに結ばれるわたしたちは、永遠のいのちの国に迎え入れ、

永遠のいのちを生きる者たちとされているのです。この信仰を本当に生きることが出来る時、イエスがそれを求めておられるなら、わたしたちの持っているものすべてを捨てて、イエスがそうされたように貧しい人々に施して、神の国へとわたしたちを招くイエスの御後に従うことができることでしょうか。わたしたちには不可能と思われることを可能にしてくださる神の全能の力を信じて、全ての人を身内の者として迎え入れ、心を配ることの出来る大らかな生き方を目指して、ともに歩んで行きたいと思います。今日のミサがそのような神のいのちの国への一歩となるよう、ともに祈りたいと思います。